



インストールの概要

このマニュアルは、スタンドアロンインストーラを使用したインストールプロセスについて説明します。**Cisco Prime Service Catalog** は、**Service Catalog** および **Service Link** という 2 つの必須コンポーネントアプリケーションと、**Reporting** というオプションコンポーネントアプリケーションで構成されます。

このインストールは **WildFly** アプリケーションサーバおよび **WebLogic** アプリケーションサーバでサポートされ、スタンドアロンとクラスタセットアップのどちらでも設定できます。

この章の後続の項では、**WildFly** アプリケーションサーバと **WebLogic** アプリケーションサーバの両方のさまざまな展開トポロジについて説明します。

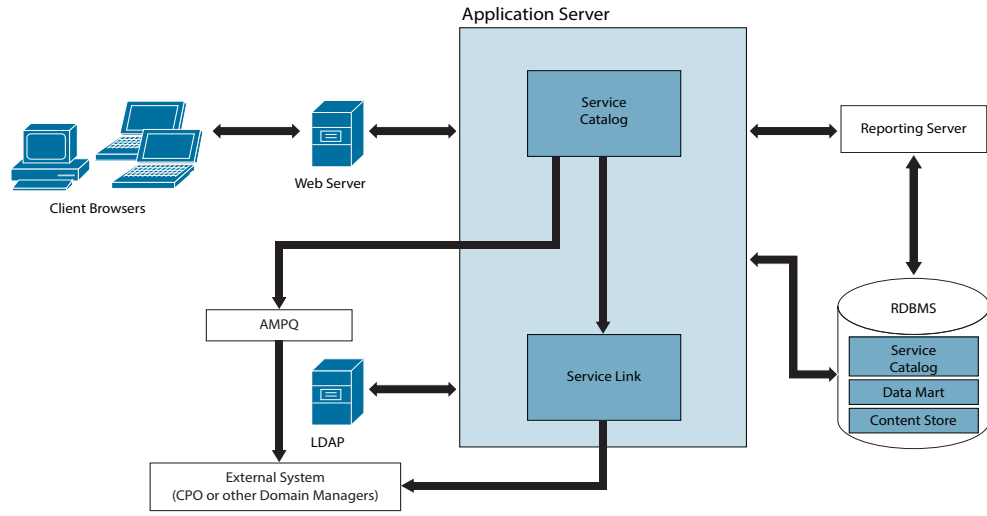
12.0.1 Virtual Appliance (OVA ファイル) のインストールの詳細については、『[Cisco Prime Service Catalog Quick Start Guide](#)』を参照してください。

展開トポロジ

Prime Service Catalog は、スタンドアロンまたはクラスタモードで設定できます。

- **スタンドアロンモード**: **WildFly** または **WebLogic** のスタンドアロンモードにおいて、**Prime Service Catalog** には標準とカスタムの 2 種類のインストールタイプがあります。標準インストールでは、デフォルト設定の適用によりインストールが効率的に実行されます。カスタムオプションを使用すると、**Service Catalog** コンポーネントアプリケーションまたは **Service Link** コンポーネントアプリケーションのいずれかだけをインストールするか、または **Service Catalog** コンポーネントアプリケーションと **Service Link** コンポーネントアプリケーションの両方を同じコンピュータにインストールするかを選択できます。

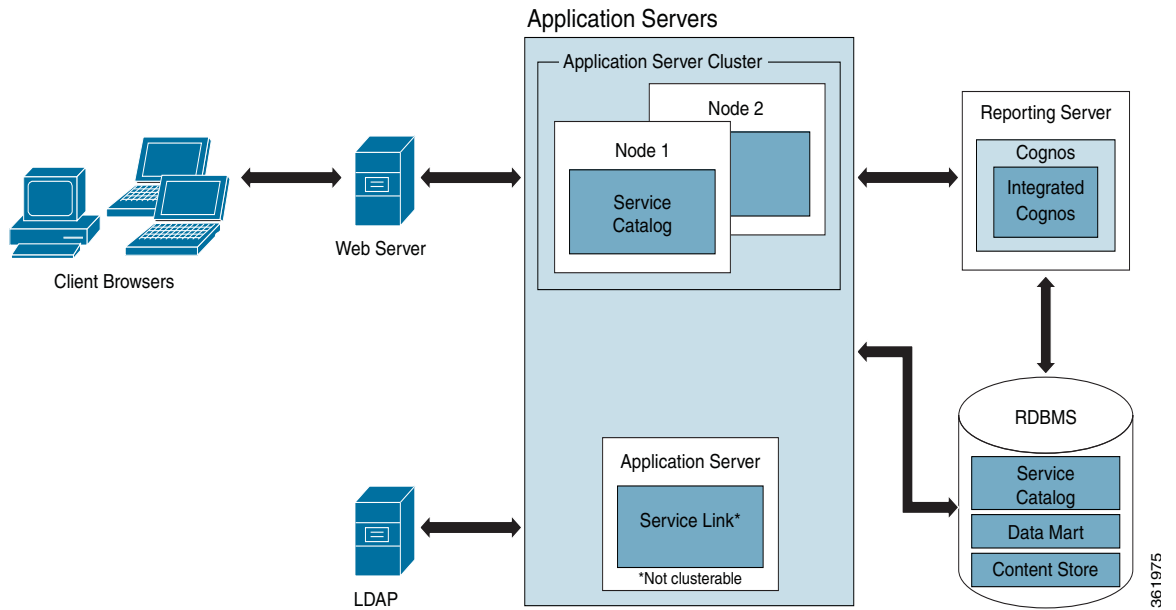
図 1-1 標準トポロジ



• クラスタ モード:

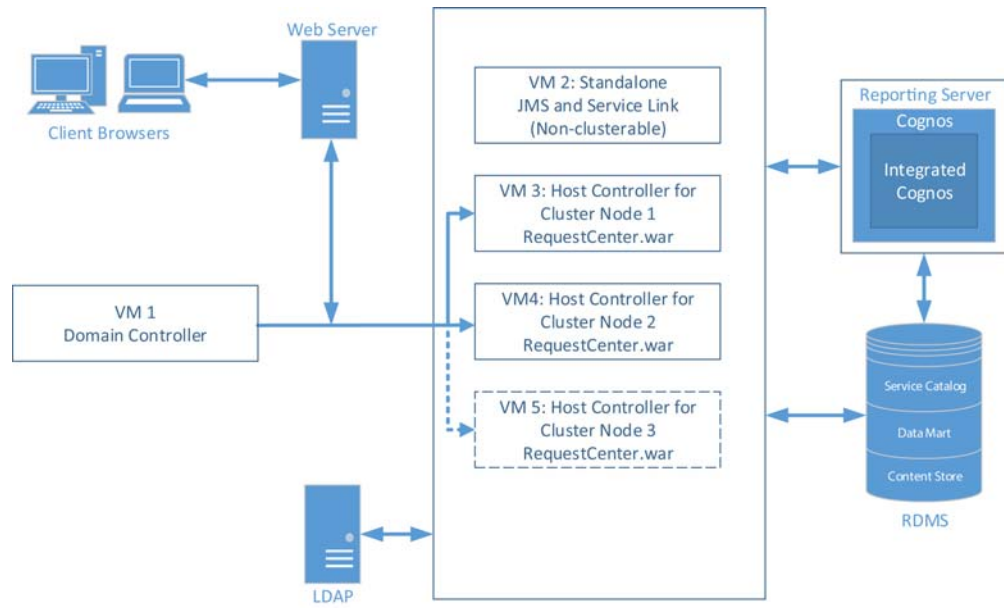
- WebLogic のクラスタ環境では、トポロジ内に複数台のアプリケーション サーバ マシンを配置することができます。次の図は、Service Catalog コンポーネントアプリケーションがインストールされている 2つのノードと、Service Link コンポーネントアプリケーションがインストールされている 1つのノードで構成されるアプリケーション サーバ クラスタの例を示します。

図 1-2 クラスタ トポロジ



- WildFly クラスタ環境では、使用可能なトポロジは 2 VM トポロジと 4 VM トポロジです。
次の図は、Service Catalog コンポーネントアプリケーションがインストールされている 2 つのノード、ドメインコントローラがインストールされている 1 つのノード、および Service Link コンポーネントアプリケーションがインストールされている 1 つのノードで構成されるアプリケーションサーバクラスタを持つ 4 VM トポロジの例を示します。
- VM1 にはドメインコントローラのみがあります。
- VM2 には Service Link および JMS サーバがあります。
- VM3 は Service Catalog のホスト 1 です。
- VM4 は Service Catalog のホスト 2 です。

図 1-3 WildFly の 4 VM トポロジ



406035

次の図は、WildFly クラスタ構成の 2 つの水平ノード(つまり、2 つの個別のホスト)がある 2 VM トポロジの例を示します。一方のノードに Service Catalog コンポーネントアプリケーションが含まれ、もう一方のノードにドメインコントローラ、Service Link コンポーネントアプリケーション、および Service Catalog コンポーネントアプリケーションが含まれます。

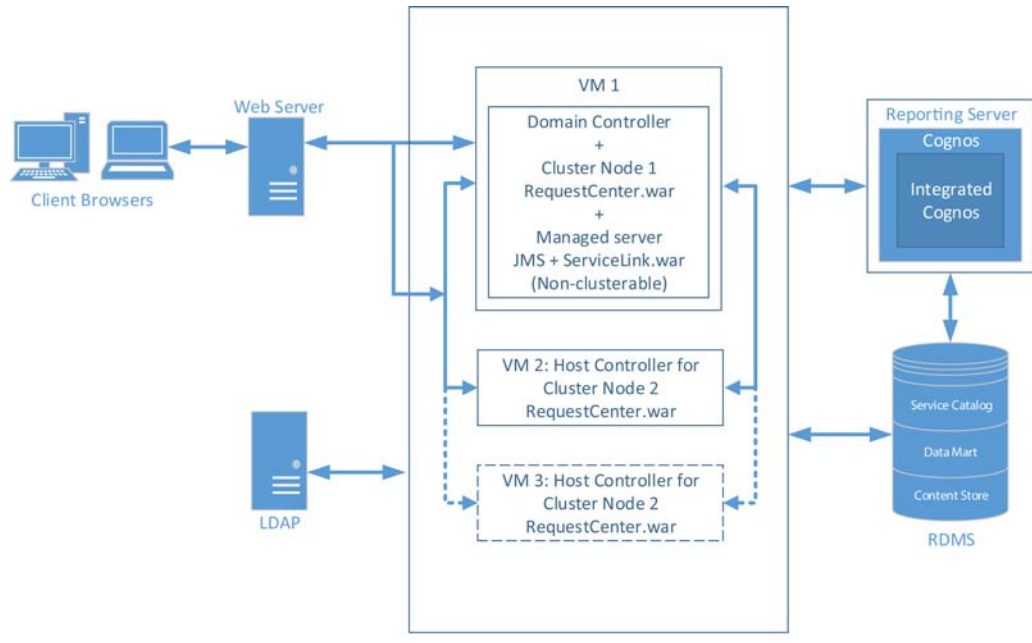
2 ノードクラスタから始めて、必要に応じてクラスタにノード(つまり、ホスト)を追加できます。



(注)

Prime Service Catalog インストーラは、最大 6 ノードのクラスタをサポートします。7 番目以降のノードを追加する場合は、「[後続のホストノードの手動での WildFly クラスタへの追加](#)」を参照してください。

図 1-4 WildFly の 2 VM トポロジ



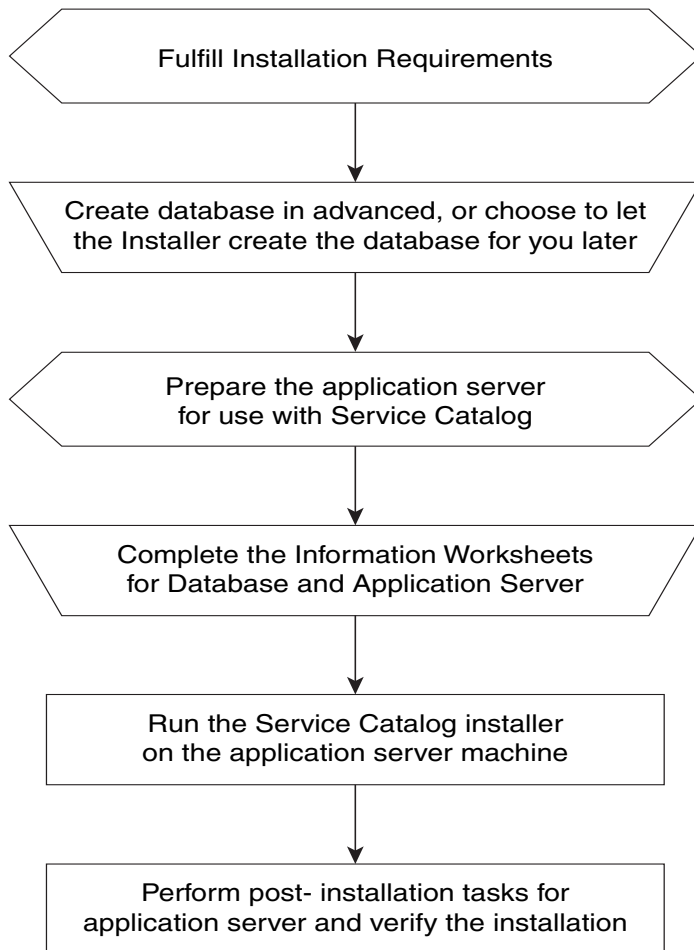
406036

次の章では、標準展開トポロジのソフトウェア要件とハードウェア要件について説明します。

全体的なインストールの流れ

次のフローチャートは Prime Service Catalog の全体的なインストールの流れを示します。

図 1-5 共通のインストール手順



364203

全体的なインストールの概要

この項では、Prime Service Catalog のインストール プロセスのロード マップを説明します。

-
- 手順 1** [インストール要件](#)の説明に従い、ハードウェアおよびソフトウェアの最小要件に適切に対応しており、前提条件ソフトウェアがインストールされていることを確認します。
- 手順 2** [Service Catalog データベースの設定](#)の説明に従って Service Catalog データベースを作成し、[データベース情報ワークシート](#)に記入します。この情報は、Prime Service Catalog インストール ウィザードの実行時に必要となります。
- 手順 3** 次のいずれかの項で説明する手順に従って、Prime Service Catalog で使用するアプリケーションサーバを準備します。
- WildFly については[インストール前の作業: WildFly](#)を参照してください。
- WebLogic については[インストール前の設定: WebLogic](#)を参照してください。
- [ワークシート](#)の項の説明に従い、該当する「アプリケーションサーバ情報ワークシート」に記入します。この情報は、Prime Service Catalog インストール ウィザードの実行時に必要となります。
- 手順 4** 「[WildFly アプリケーションサーバでの Prime Service Catalog のインストール](#)」または「[WebLogic アプリケーションサーバでの Prime Service Catalog のインストール](#)」に記載されている手順に従って、アプリケーションサーバマシン上で Prime Service Catalog インストーラを実行します。以前のリリースからのアップグレードインストールを実行する場合は、この項と併せて [Prime Service Catalog のアップグレード](#)も参照してください。
- 手順 5** アプリケーションサーバのインストール後の作業を行い、次のいずれかの項の説明に従ってインストールした内容を確認します。
- WildFly については [WildFly のインストール後の作業](#)を参照してください。
- WebLogic については[インストール後の設定: WebLogic](#)を参照してください。
- 手順 6** Reporting の機能を有効にするには、Reporting ソフトウェア モジュールおよび Cognos ソフトウェアをインストールし、さらに Cognos サーバを Prime Service Catalog アプリケーションと統合するための設定を行う必要もあります。この作業ができる状態になったら、[Reporting モジュールのインストールとアップグレード](#)の手順に従って作業してください。
-